

機能性

住宅引渡し2年目のアフターメンテナンスで最も多い手直しは「クロス切れ」です。

- 下地材の経年変化(寒暖差による縮み、可動部による振動、地震など)によりクロス切れトラブルが発生します。
- 見切材をトラブルの起きやすい窓廻りや壁面部にデザイン部材として組み込むことでクロス切れを未然に防ぎ、美しさを保ちます。

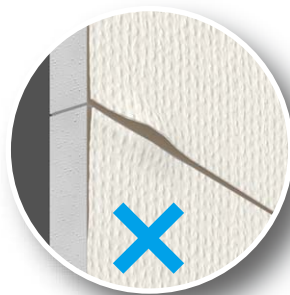
「天井一壁」納まり例
(クロス見切 C-3T)

「階段廻りの吹き抜け部」納まり例
(幕板見切 6T)

「天井一壁」納まり例
(フリー勾配スライド見切 3T)



見切材を使用しないと…



見切材を使用しないと…



見切材を使用しないと…

ここでご紹介している見切材は「省令準耐火構造」にも対応しています。

※住宅金融支援機構が定める防火被覆材(せっこうボード)の上に後付けするので、省令準耐火構造に対応します。

※省令準耐火構造とは?

- ①隣家などから火をもらわない
 - ②火災が発生しても部屋から火を出さない
 - ③万が一が一部屋から火が出て延焼を遅らせる
- という3つの考えに基づいた対策が施され、万が一の火災時にも延焼時間を十分に確保出来る性能を持っていると公的に認められた構造のことです。

火災保険料が最大で半額になります。